

環境にやさしい 本当の意味



砂浜に打ち上げられたプラスチック(みづのり200年6月、愛媛県伊方町で)



プラスチックの海に生き物に悪影響

鼻につまったストローを引っ張り出されるウミガメ「YouTube」から



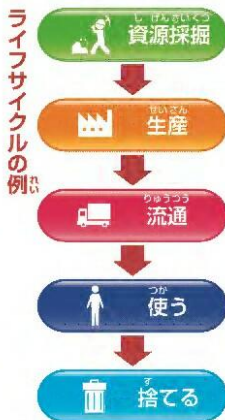
マイクロプラスチックができるしくみと影響

- ①プラスチックの物が捨てられ、川や海へ流れつく
- ②紫外線や波の力などで、細かく砕ける
- ③マイクロプラスチック
- ④生き物が誤って食べる
- ⑤魚を食べた人間にも悪影響のおそれ

紙ストローを急速に広めたのは2015年、SNSに投稿された1本の動画です。野生の

ウミガメの鼻にストローがつまり、引っ張り出されるとい痛々しい内容で、「脱プラ」の機運が高まりました。微生物に分解されて土や水にかえる紙と違い、プラは分解されず、自然界にずっと存在します。

原料から廃棄まで評価



エコを考えるうえで近年、世界的に注目されている言葉が「ライフサイクルアセスメント(LCA)」です。商品の原料調達から廃棄まで、すべての過程で環境への影響を評価するという手法です。

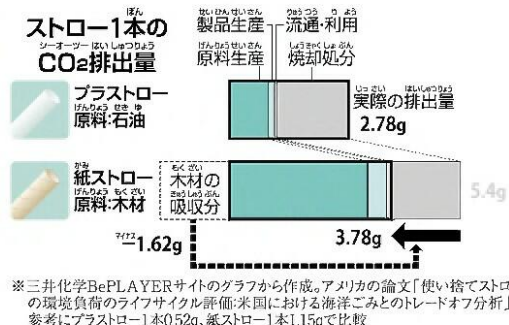
たとえば電気自動車は走る時にCO₂を出しませんが、充電する電気を火力発電でつくるときには排出するため、その分も考える必要があります。最近ではLCAに基づき、原料の調達や従業員の通勤・出張などで間接的に出したCO₂の量も算定し、公表する企業が増えています。

雰囲気やイメージでなく 東京大学准教授 中谷隼さん

ひとくちに「環境にいい」といっても、「CO₂削減」「海洋ごみが減る」「節水」など意味はさまざま。紙もプラも、ライフサイクル全体を見れば長所も短所もあり、



どう環境にいいのかも違ってきます。雰囲気やイメージで判断せず、「この商品はどこがどう環境にいいのかわかることが本当のエコにつながります。



※三井化学BePLAYERサイトのグラフから作成。アメリカの論文「使い捨てストローの環境負荷のライフサイクル評価:米国における海洋ごみとのトレードオフ分析」を参考にプラスチック1本0.52g、紙ストロー1本1.15gで比較

紙ストロー CO₂ 多く

プラスチック(プラ)のストローは、その便利さから世界中で使われてきました。でも、ほとんどが使い捨てで、燃やすと地球温暖化につながる二酸化炭素(CO₂)を排出します。CO₂が増えれば、地球上に熱がたまって温室のような

状態になってしまうので、プラは「環境に悪い」というイメージが広まり、紙ストローへの切り替えが進みました。しかし2022年にアメリカで発表された論文によると、プラスチックと紙ストローを比べた場合、1本あ

たりのCO₂排出量は紙の方が多いという結果に。特に木材から紙をつくる生産過程で多くのCO₂が発生し、木が切られる前に吸収したCO₂の量を差し引いても、排出量はプラより多くなってしまいます。



50~150回使わないとCO₂が削減できない!

エコバッグ使い続けて効果

紙ストローより少し早く広まったエコバッグ。街中でプラのレジ袋の代わりに持っている人も多いです。よね、日本ではプラスチックの削減のため、2020年にレジ袋が有料化されました。21年に流通したレジ袋の量は19年から半減するなど、一定の効果も上がっています。「よかったよかった」と言

いたいところですが、実はそう単純でもありません。一般的なエコバッグの材質は、石油が原料のポリエチレンやナイロン。製造には工場での染色や縫製など多くの工程があり、その過程で出るCO₂の量はレジ袋より多いのです。東京大学の准教授・中谷隼さんは「1つのエコバッグを少なくとも数十回は使わないと、CO₂の削減効果は得られません」と指摘します。エコバッグは「買って安心」ではなく、使い続けることが大切です。